

今回の指導案は食のオノマトペ発案者である、熊本市白山小学校の栄養士、宇野宏子先生の実践に基づくものです。指導後の感想としては、噛むこと、食べることに集中していた。食べる速さの個人差が少なくなり一定の時間で食べ終わることができた。しっかり噛んで食べることで、いつもは感じないいろいろな味に気づくことができた。おいしく食べるには丈夫な歯が必要であることに気づくことができた。ということです。皆さんもやってみませんか。

### 小学校 全学年 学級活動(給食時間・食に関する指導) 指導案

指導者 ・担任 ・学校栄養職員 ・養護教諭

1. 主題 「食べ物のおノマトペ」

2. 主題について

(1) 主題観

食べ物のおいしさに、食感は大きなウエートを占める。口中、特に歯によってもたらされる様々な食感をオノマトペで表現することで、子どもは食べることに集中し、食べ物のおいしさを発見することができる。そこから、歯の大切さを実感し、歯を健康に保とうとする意欲を育てたい。

(2) 児童観

食べる速さは段々そろってくるが、低学年のうち食べる速さの個人差が大きい。ゆっくり噛みつくして食べる子がいる一方、一気にかきこむ子、おしゃべりで食べることに集中しない子はじっくり味わっていない。歯の生え変わり時期は、食べにくさから歯の大切さを意識し大人の歯を大切にしようとする意欲を持つときである。給食時間後の歯磨きタイムはほぼ定着しているが、歯ブラシ忘れや食べるのが遅くなって磨かない子もいる。

(3) 指導観

食感のオノマトペを、食品による違いや口のどの部分で発生するのかに着目させて表現させる。事後の給食指導で、よく噛んでつばと混じると味がよくわかることを初めとした噛むことの大切さや、食後の歯磨き習慣の定着を図る。

3. 本時の学習

(1) 本時のねらい

よく噛んで食べ物の食感を楽しみ、歯を大切にするために食後歯を磨くことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	支援	備考・評価( )
導入 2分	1. 食べ物によって違う噛む時の音を感じながら食べることを知る。 (オノマトペってなんだろう?) (食べ物には音があるのか) (よーし、たくさん見つけるぞ)	オノマトペは擬音語・擬態語であることを知らせる。 ・カリカリ、ポリポリ、バリバリ ・ぬるっ、むにゅ、ぐにゅっ 食品ごとに噛む時の音が違うことを知らせ、発見させる。	給食  オノマトペに興味を持てたか。
食べ物のオノマトペを集めよう!!			
展開 16分	2. 発見したオノマトペをどんどん発表する。 (へえ、こんな音もあるんだ!) (ごはんは・野菜は・果物は) ( ちゃんとは違うなー) 3. 口の中のどこで見つけたオノマトペか振り返る。 (歯、歯ぐき、舌、ほほ、のど……) 4. 歯がなかったら……を考える。 (いやだなー、食べにくい) (強く噛めないし、噛み切れない) (おいしくないだろうなー)	自分の言葉で表現させる。 たくさん出るよう促す。 目をつぶったり、耳をふさいだりして、口の中やあごの音に集中させる。  特に歯が多いことに気づかせる。 自分自身の口の中のことを思い出させる。 (むし歯のこと、生えかわりのこと) (何でも食べれる、チョッと食べにくい、痛くて食べれない)	食べることに集中しているか。  広用紙、付箋紙  食べ物を食べる時、色んな音がすることに気づいたか。  いい歯でよく噛んでおいしく食べるよさに気づいたか。
まとめ 2分	5. オノマトペを探して食べた良かったことを振り返る。 (味がよく分かった) (しっかり噛まないと分からない) (食べる時間がみんな一緒) 6. 食べた歯を磨くこと、むし歯の治療をすること約束する。	いつもと比べ集中し、よく噛んで食べていたことに気づかせる。 みんな大体同じようなペースで食べられたことに気づかせる。 よく噛んで食べると色んな味がしたこと、美味しかったことに気づかせる。	早すぎない、遅すぎない、一定のペースで食べられるようになったか。 味わって食べるのができたか。 歯を大切にしたい意欲が持てたか。